

領 域	専門分野 I 基礎看護学	対象学年	2 年	開講時期	前期																																
科 目	診療援助技術	単 位 (時間)	1 単 位 (30 時間)																																		
講 師 名 所 属	大坪 香織 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 19 年																																				
<p>科目目標：</p> <p>1. 薬物療法を受ける対象を理解し、基本的な援助技術を習得できる</p> <p>2. 検査や検査に伴う処置を受ける対象を理解し、基本的な援助技術を習得できる</p>																																					
<p>授業概要：</p> <p>診療援助技術は、「検査を受ける患者の看護」「薬物療法を受ける患者の看護」の単元で構成されている。講義は、DVD の視聴やグループワークを用いながら進める。各単元の授業概要は、以下の通りである。</p> <p>1. 薬物療法を受ける患者の看護 薬物療法を受ける対象について理解できるよう教授する。与薬に関する基礎知識について、グループワークを取り入れながら授業を進める。</p> <p>2. 検査を受ける患者の看護 検査を受ける対象について理解できるよう教授する。生体検査については、検査の内容、看護についてまとめ、発表をする。検体検査については、採取時の看護技術について教授する。</p>																																					
<p>授業計画</p> <p>1. 薬物療法を受ける患者の看護</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>講義形式</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 薬物療法の目的 2. 薬物療法における看護の役割と機能 3. 薬物療法を受ける患者の心理</td> <td>講義</td> <td rowspan="10">大坪 香織</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4. 与薬に関する基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5. 経口与薬・口腔内与薬時の注意点 6. 直腸内与薬時の注意点 7. 点眼・点入・点鼻時の注意点 8. 経皮的与薬時の注意点</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9. 注射時の援助と方法 1) 注射の問題点 2) 吸収速度と持続時間 3) 注射器・注射針、注射薬の取り扱い</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>9. 注射時の援助と方法 3) 注射器・注射針、注射薬の取り扱い アンプルカット・バイアルカット (技術演習)</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>9. 注射時の援助と方法 4) 皮内注射、静脈内注射、輸血療法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>9. 注射時の援助と方法 5) 皮下注射、点滴静脈内注射</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>9. 注射時の援助と方法 6) 筋肉内注射</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9~10</td> <td>9. 注射時の援助と方法 6) 筋肉内注射 (技術演習)</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>						回数	講義内容	講義形式	担当講師	1	1. 薬物療法の目的 2. 薬物療法における看護の役割と機能 3. 薬物療法を受ける患者の心理	講義	大坪 香織	2	4. 与薬に関する基礎知識	講義	3	5. 経口与薬・口腔内与薬時の注意点 6. 直腸内与薬時の注意点 7. 点眼・点入・点鼻時の注意点 8. 経皮的与薬時の注意点	講義	4	9. 注射時の援助と方法 1) 注射の問題点 2) 吸収速度と持続時間 3) 注射器・注射針、注射薬の取り扱い	講義	5	9. 注射時の援助と方法 3) 注射器・注射針、注射薬の取り扱い アンプルカット・バイアルカット (技術演習)	演習	6	9. 注射時の援助と方法 4) 皮内注射、静脈内注射、輸血療法	講義	7	9. 注射時の援助と方法 5) 皮下注射、点滴静脈内注射	講義	8	9. 注射時の援助と方法 6) 筋肉内注射	講義	9~10	9. 注射時の援助と方法 6) 筋肉内注射 (技術演習)	演習
回数	講義内容	講義形式	担当講師																																		
1	1. 薬物療法の目的 2. 薬物療法における看護の役割と機能 3. 薬物療法を受ける患者の心理	講義	大坪 香織																																		
2	4. 与薬に関する基礎知識	講義																																			
3	5. 経口与薬・口腔内与薬時の注意点 6. 直腸内与薬時の注意点 7. 点眼・点入・点鼻時の注意点 8. 経皮的与薬時の注意点	講義																																			
4	9. 注射時の援助と方法 1) 注射の問題点 2) 吸収速度と持続時間 3) 注射器・注射針、注射薬の取り扱い	講義																																			
5	9. 注射時の援助と方法 3) 注射器・注射針、注射薬の取り扱い アンプルカット・バイアルカット (技術演習)	演習																																			
6	9. 注射時の援助と方法 4) 皮内注射、静脈内注射、輸血療法	講義																																			
7	9. 注射時の援助と方法 5) 皮下注射、点滴静脈内注射	講義																																			
8	9. 注射時の援助と方法 6) 筋肉内注射	講義																																			
9~10	9. 注射時の援助と方法 6) 筋肉内注射 (技術演習)	演習																																			

2. 検査を受ける患者の看護			
回数	講義内容	講義形式	担当講師
11	1. 検査の目的 2. 検査を受ける患者の心理 3. 検査における看護師の役割 4. 検査に伴う不快を最小にするための援助 5. 正確な検査資料を得るための援助	講義	大坪 香織
12～13	6. 生体検査時の看護	講義	
14	7. 検体検査 1) 検体の種類と目的 排泄物、体液、穿刺液、分泌物、組織 2) 検体採取時の看護技術 (1) 血液・尿・便・喀痰採取時の留意点 (2) 腰椎穿刺、胸腔穿刺・骨髄穿刺時の介助 (3) 採血	講義	
15	7. 検体検査 (3) 採血 (技術演習)	演習	
	試験		
テキスト			
1. 薬物療法を受ける患者の看護 1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
2. 検査を受ける患者の看護 1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院			
参考文献			
1. 検査値ガイドブック サイオ出版 2. 看護六法 看護行政研究会 3. 「新たな看護のあり方に関する検討会」中間まとめ 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/09/s0906-4.htm			
評価方法 筆記試験 (別紙評価計画参照)			

領域	専門分野Ⅰ 基礎看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	臨床看護総論演習Ⅱ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	剣持 洋子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年 久原 佳身 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年				
科目目標： 1. 対象の健康を支援するために必要な教育、指導の基本について理解できる 2. 健康障害をもつ対象の状態に応じて複数の看護技術を適用する基礎を習得することができる					
授業概要： 臨床看護総論演習Ⅱは、「指導技術」と「看護技術の適用」の単元で構成される。 各単元の授業概要は以下の通りである。					
1. 指導技術 健康を支援する必要がある対象を理解し、健康教育をするための指導技術の実際について教授する。講義は、事例やグループワークなど用いて進める。					
2. 看護技術の適用 事例に対し、フィジカルアセスメントを用いて対象の状態を把握することを学ぶ。 講義は、学習者自身が学習の課題を見つけ、主体的に取り組むことができるように支援する。					
授業計画					
1. 指導技術					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1	1. 学習支援 1) 看護における学習支援 2) 学習支援に必要な理論	講義	久原 佳身		
2	1. 学習支援 3) 健康に生きることを支える学習支援 4) 健康状態の変化に伴う学習支援 5) 個人を対象とした学習支援 6) 家族を対象とした学習支援 7) 集団を対象とした学習支援	講義			
3	2. 学習支援の実際 1) 指導案とは 2) 指導内容の精選と指導方法の選択 3) 中範囲理論の活用	講義			
4	2. 学習支援の実際 健康指導案の作成	講義・演習			
5～6	2. 学習支援の実際 健康指導案の演習(技術演習)	演習			
2. 看護技術の適用					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
7	1. 看護技術の適用とは 1) 看護の実践 2) 看護技術の適用とは	講義	剣持 葉子		

8	2. 対象の状態に応じた複数の看護技術の適用 1) 看護技術を実施する際の原則 2) 看護技術を適用する判断 3) 倫理的配慮	講義・演習	劔持 葉子
9～10	3. 対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1) 事例 A の状態のアセスメント (1) 訪問（初回面接）のフィジカルアセスメント (2) 優先度・優先順位のアセスメント	講義・演習	
11～12	3. 対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1) 事例 A の状態のアセスメント（演習） (3) 看護目標・介入計画立案 呼吸を整える技術 循環動態を整える技術	演習	
13	3. 対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1) 事例 A の看護実践と評価（演習） (4) 看護実践（介入）の根拠	演習	
14～15	3. 対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1) 事例 A の看護実践と評価（演習） (5) 看護実践の評価・考察・フィードバック	演習	
	試験		
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院</p> <p>2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>			
<p>参考文献</p> <p>適時紹介する</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験（別紙評価計画参照）</p>			

領域	専門分野 I 基礎看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	看護研究	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	鳥井 太貴 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年 松浦 江美 長崎大学医学部保健学科 教授 実務経験:看護師保健師5年				

科目目標:

1. 専門職として看護研究を行うことの重要性を理解し、科学的思考や態度を習得できる
2. 既存の知識や理論を活用するプロセスを理解できる

授業概要:

この科目では、看護学における研究課程を学習し、看護学領域の研究論文を理解するための基礎的知識を習得する。また、看護における研究の意義を認識し、看護理論や看護実践との関係性について考え、看護専門職に必要な研究的思考に基づき、課題を解決する過程を体験する。最終成果として、研究計画書の完成・発表を目指す。講義の中では、精選された文献に触れることで、適切で最新の知識を取り入れることの重要性や、研究倫理のあり方を学ぶ。

受講前に1年時の科目「情報科学・演習」において履修している基礎的な統計処理や情報処理に関する復習をしておくこと、および研究課題を追求するために既習学習内容を駆使して積極的に学ぶ姿勢が求められる。また、学術集会や看護研究に関する企画等が開催される機会は、貴重な経験になることから、積極的に参加することを期待する。

<関連科目・発展科目>

1年時の科目「英語講読」、2年時の科目「英会話」において看護に関する英語論文を読解するための力を身に付け、実際の英語に触れる機会を得ることで、英語論文への苦手意識を克服し、広い知識を得るための基礎的能力の獲得をねらいとしている。3年時の科目「看護総合技術」においては、この科目で培った基礎的知識を基に学生各自がケーススタディに取り組み、学会形式の発表会を企画する。そこで看護実践の充実に向け創造的に探究するための能力やプレゼンテーション能力および企画運営するための管理的能力を養えることをねらいとしている。

授業計画

回数	講義内容	講義形式	担当講師
1	1. 看護研究の意義 2. 問題解決と研究の相違 3. 看護実践のなかから生まれる研究疑問	講義	鳥井 太貴
2	4. 研究の設計と方法の選択 1) 看護における研究デザインの多様性 2) 研究の問いと研究デザイン	講義	
3	5. 看護研究のプロセス 6. リサーチクエスションの明確化	講義	
4	7. 看護研究における倫理的な問題とその対応 1) 研究における倫理的配慮の原則 2) 依頼書と同意書に関する考え方・方法 3) 特別な配慮が必要な場合の対応	講義	
5~6	8. 文献検索と文献検討 1) 文献検索と文献検討の必要性 2) 一次文献と二次文献 3) 文献検索の実際(演習)	講義・演習	松浦 江美
7	9. 研究のクリティークの目的 1) 研究論文に対するクリティーク (量的研究、質的研究)(演習)	講義・演習	

8	10. 研究計画書 1) 研究計画書の意義 2) 研究計画書の作成 研究テーマ、研究しようとする問題の背景、 研究動機、研究目的、研究の意義、研究方法	講義	松浦 江美
9	11. 量的データ収集方法と分析 1) 分析のためのデータ処理と入力 2) 統計学的分析 (1) 記述統計量 (2) 母集団と標本 (3) 推測統計量	講義	
10	11. 量的データ収集方法と分析 3) 質問紙によるデータ収集 4) 質問紙の作成 (質問紙を開発する場合、開発しない場合の手続き)	講義	
11	12. 質的データ収集方法と分析 1) 質的研究におけるデータ収集 (1) 面接(インタビュー) (2) 参加観察法	講義	
12	13. 取り組んでいる研究のグループ検討 統計について、分析方法等	講義	
13	14. 研究論文のまとめ方 (1) 論文の全体構成 (2) 結果、考察のまとめ方	講義 演習	鳥井 太貴
14～15	15. 研究結果の公表 (1) プレゼンテーション (2) 研究成果発表の場と方法 (3) 論評	演習	松浦 江美 鳥井 太貴

テキスト

講義・演習に必要な資料等は講義時に配布する。

※量的研究の演習では、1年次履修科目「情報科学・演習」の統計に関する資料を参考にすることで、量的研究の理解が深まる。

参考文献

1. 新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社
2. 初学者のための質的研究 26 の教え 医学書院
3. 看護研究 Step by Step 医学書院
4. 看護研究(第1版) 医学書院
5. 看護研究 原理と方法 医学書院
6. 質的研究と記述の厚み—M-GTA・事例・エスノグラフィー (グラウンデッド・セオリー・アプローチ) 弘文堂
7. 医学中央雑誌 サーチエンジン

評価方法

筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)

領 域	専門分野 I 基礎看護学	対象学年	2年	開講時期	前期								
科 目	看護過程実習	単 位 (時間)	2 単 位 (90 時間)										
講 師 名 所 属	馬場 亜希子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 18年												
<p>実習目的・目標：</p> <p>学内において学んだ基礎的知識・技術・態度を、実際の看護場面で展開し、看護の基礎的能力を養うという基礎看護学の最終段階の科目である。</p> <p>看護過程実習は、各看護学実習の基礎となる看護過程を学ぶ。看護過程とは、患者の健康上の課題を見極め、その解決についての考えを計画・実施し、結果を評価しながらよりよい問題解決をはかるという一連の意図的な活動を示すものであり、看護師の思考過程の軸となる。これによって患者の問題やニーズを明確にし、優先順位にそって科学的な方法で看護ケアを計画・実施し評価することができる。また、看護過程は、実在する問題だけに介入するのではなく、危険因子を管理し、健康により行動を勧めることで健康を最大限に増進する必要がある。ロイは、看護の対象である人間とその集団を「全体的な適応システム」と捉え、外的・内的環境の変化である刺激が入力（インプット）されると対処プロセスを経て、環境に適応すべく4つの適応様式（生理的-物理的様式、自己概念-集団アイデンティティ様式、役割機能様式、相互依存様式）のいずれかの反応・行動（アウトプット）があらわれるということ、刺激を操作し適応を促進することが看護の目標であると述べている。ロイの概念モデルを用いることで問題の原因・要因を焦点化し思考を整理することができる。そこで本実習では、ロイ適応看護モデルとNANDA-I看護診断を用いて看護過程の各ステップを学ぶ。さらに、実施した看護をまとめ、自己の看護を振り返り、体験を意味付けする機会とする。（詳細は実習要項参照）</p>													
<p>授業概要：</p> <p>看護過程実習は、受け持ち患者を統合的に捉えられるように生理的様式・自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式の全様式について、情報収集し、行動のアセスメント、刺激のアセスメントを行い、適応問題を明確化する。さらに、その適応問題について看護目標・看護介入計画立案を行い、実施、評価、考察する。</p>													
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 健康障害をもち、入院治療を受けている患者を統合的に理解し、適応問題を明確にできる</td> <td>①受け持ち患者について必要な情報の収集 ②情報が適応行動か、非効果的行動かの判断 ③非効果的行動について、適応問題の焦点化を行い、仮の看護診断をあげる ④仮診断の影響因子の明確化 ⑤患者の行動に影響を及ぼす焦点・関連・残存刺激の明確化 ⑥関連図を用いた行動と刺激の情報の関連付け ⑦患者の状態に応じた看護診断 ⑧問題の優先順位を明確化</td> </tr> <tr> <td>2. 患者の適応問題を引き起こしている刺激（要因）に介入する看護計画を立案できる</td> <td>①看護目標を達成させるための具体的な介入計画立案</td> </tr> <tr> <td>3. 刺激（要因）を操作する看護介入を実施し、評価・考察できる</td> <td>①安全・安楽を考慮した患者の適応に向かう計画の実施 ②患者に介入した結果の判断 ③看護の実際、患者の反応の具体的な記述 ④実施した結果、得られた患者の反応から日々の看護目</td> </tr> </tbody> </table>						実習目標	実習内容	1. 健康障害をもち、入院治療を受けている患者を統合的に理解し、適応問題を明確にできる	①受け持ち患者について必要な情報の収集 ②情報が適応行動か、非効果的行動かの判断 ③非効果的行動について、適応問題の焦点化を行い、仮の看護診断をあげる ④仮診断の影響因子の明確化 ⑤患者の行動に影響を及ぼす焦点・関連・残存刺激の明確化 ⑥関連図を用いた行動と刺激の情報の関連付け ⑦患者の状態に応じた看護診断 ⑧問題の優先順位を明確化	2. 患者の適応問題を引き起こしている刺激（要因）に介入する看護計画を立案できる	①看護目標を達成させるための具体的な介入計画立案	3. 刺激（要因）を操作する看護介入を実施し、評価・考察できる	①安全・安楽を考慮した患者の適応に向かう計画の実施 ②患者に介入した結果の判断 ③看護の実際、患者の反応の具体的な記述 ④実施した結果、得られた患者の反応から日々の看護目
実習目標	実習内容												
1. 健康障害をもち、入院治療を受けている患者を統合的に理解し、適応問題を明確にできる	①受け持ち患者について必要な情報の収集 ②情報が適応行動か、非効果的行動かの判断 ③非効果的行動について、適応問題の焦点化を行い、仮の看護診断をあげる ④仮診断の影響因子の明確化 ⑤患者の行動に影響を及ぼす焦点・関連・残存刺激の明確化 ⑥関連図を用いた行動と刺激の情報の関連付け ⑦患者の状態に応じた看護診断 ⑧問題の優先順位を明確化												
2. 患者の適応問題を引き起こしている刺激（要因）に介入する看護計画を立案できる	①看護目標を達成させるための具体的な介入計画立案												
3. 刺激（要因）を操作する看護介入を実施し、評価・考察できる	①安全・安楽を考慮した患者の適応に向かう計画の実施 ②患者に介入した結果の判断 ③看護の実際、患者の反応の具体的な記述 ④実施した結果、得られた患者の反応から日々の看護目												

	<p>標の達成評価</p> <p>⑤日々の看護目標の達成状況から、要因と今後の援助の方向性の考察</p> <p>⑥実施した看護の評価</p>
<p>4. 医療チームの一員として自覚し行動できる</p>	<p>①根拠を持った主体的な行動</p> <p>②倫理的判断のもと責任ある行動</p> <p>③患者の問題を解決するための多職種との連携の意義</p>
<p>詳細は、実習要項参照</p>	
<p>2. 実習施設</p> <p>独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター</p>	
<p>3. 実習期間</p> <p>2年次前期（5～6月）の3週間</p>	
<p>履修条件</p> <p>学則細則第3章第12条</p> <p>専門分野の授業科目において単位履修ができていない者は学習の順序性から当該科目の実習を履修することができないことがある。（詳細は履修規程や履修要領を参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態機能学Ⅰまたは形態機能学Ⅱの単位認定を受けていない者は、基礎看護学看護過程実習を履修できないことがある。 ・基礎看護学生生活援助技術実習において単位認定されなければ基礎看護学看護過程実習を履修できない。 	
<p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院 2. NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 4. これなら使える看護診断 医学書院 5. 関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録 かみくだき看護診断過程 日総研出版 6. 検査値ガイドブック 医学芸術社 7. 看護過程に沿った対症看護 学研 	
<p>評価方法：</p> <p>実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。（実習要項・実習要領・評価基準参照）</p>	